

がんプロ公開セミナー

「がんセンターにおけるチャイルド・ライフ・スペシャリストの役割」

アンケート結果

日時 2018年3月7日

場所 弘前大学医学科臨床大講義室

1.今回参加した理由をお知らせください。(複数回答)

1)向学のため	19
2)興味があった	28
3)業務に役立てるため	17
4)上司からの指示	5
5)その他	1

2.今回のセミナーは何で知りましたか

1)勤務先でのダイレクトメール	19
2)弘前大学がんプロホームページ	9
3)がんサロンだより	5
4)弘前大学がんプロフェイスブック	3
5)その他	15
無回答	2

3.講演についてお答えください。

1)参考になった	48
2)参考にならなかった	0
3)どちらともいえない	1

4.講演の感想などをお聞かせください。

- ・県内にもチャイルドライフスペシャリストが誕生し、小児科で活躍してもらいたいと思います。入院中の子どもたちが癒されたらいいと思います。
- ・がんで治療していることを子どもに話すかどうか相談を受けたことがあり、今回の研修の内容が参考になりました。プリパレーションの具体例も勉強になりました。今後いかしていきたいと思います。
- ・AYA 世代、子育て世代のがん患者への関りはとても難しいと思います。看護師の立場では、なかなか心理面のサポートや深い思いを聞き出して個別的に支援していくというのが、マンパワー不足もあり、困難な状況であるというのが現状です。学校との連携においても同様です。CLS の役割の重要性を感じると共に、各施設で活躍していただける CLS の方が増えることを期待したいです。
- ・今後何をしていくべきか少しわかった。
- ・とても、わかりやすかったです。勉強になりましたし、今後、自分で何かできることがないか、考えて行きたいと思います。CLS が全国の病院にいてくれたら、もっと多くの子どもたちが救われるかな、と思いました。ありがとうございました。
- ・とても有意義でした。
- ・とても参考になりました。医療者としての立場と、二人の子どもを持つ親としての立場の両方から勉強させて頂きました。がんに関わっていない多くの方々にも是非知ってほしいお話だと感じました。今後のご活躍を祈念致します。
- ・残される家族への支援が最も大切だと感じました。
- ・CLS の役割や活動内容について理解を深めることができました。

- ・CLS という職種の存在を知らなかったなので、今回の講演はとても、役に立った。やはり、個別のケースを挙げての取り組みの紹介は、リアリティと、工夫が多く成されていて参考になった。
- ・とても参考になりました。これからの医療には CLS のようなサポートが必要になっていると身近に感じました。私は小学校教師であるが、学校におけるがん教育はこれからどのようにしていけばよいのか、目指しているものについても知りたくなりました。
- ・医療関係の方々もいろいろと考えてくださっているのだと思いました。私の知る医療機関では、「心のケア」と表しているのですが、現状とは一致していないような気がします。妹の化学療法、放射線治療に常時付き添い感じた事です。「子供」に対するケアは、海外の方が進んでいるんですね。
- ・実際の現場の声や、思っていること、考えていることを知れてよかった。
- ・子育て世代のがん患者の子どもへの関わりについて勉強になりました。外来通院治療の中で親本人の治療へのケアを行うことが限界で、子どもへの配慮が及ばないことが多いですが、声がけなどからしていきたいと思いました。(子どものことより相談したい場合の対応は難しいですが)相談をしやすい雰囲気作りから
- ・治療をしていく中で大切なこと、必要な関わりであるが専門的な話を聞く機会がなかったため大変貴重な講演でした。ありがとうございました。
- ・とても勉強になりました。まだ家庭はもっていませんが、家族をもったときに告知する、しないの重要さをとても大切だと思いました。講義の内容に、昔のことを思い出し涙を流してしまいました。貴重な講義ありがとうございました。

- ・年齢に応じた支援(アプローチ)があるとあったが、2〜3 歳の子供たちに対しては、“死”を伝えることがゴールなのか…(今を大切にしている)と話しあったが、今を重ねることで最終的に親の死は受け入れられるのか、少し気になった。成長していく過程で“死”について受け入れられるのかなど、長期的支援を継続していくことの難しさを感じた。

- ・実際は AYA 世代に関わる仕事ではないですが、緩和ケア委員であるため何らかのヒントになると思い参加しました。

- ・同テーマで各分野の方々がシンポジウム形式でディスカッションしてもおもしろかったのではないのでしょうか…

- ・子供が親の死を受け入れられる難しさを知ることができた。亡くなった後の子供のケアについては関わることはできていなかったので今後考えていかなければならないと思う。

- ・当院の小児科病棟では AYA 世代ももちろん入院しているが、どうしても大人あつかいをしてしまうので、それぞれの世代や個別にしっかり対応していかなければと改めて感じた。いろいろなサポートの内容をきくことができとても参考になりました。

- ・AYA 世代の支援については、なかなか資料がなかったりするので、今回の講演を聞くことができて良かった。

- ・AYA 世代への関りや、患者様同士の情報交換の場の提供など、勉強になった。

- ・心のケアの在り方がよくわかった。子供への接し方にも様々な工夫がされていて、青森にも CLS の方がいたら医師や看護師ができない患者さんへのフォローがされることで医療がより良くなっていくと思った。

- ・今まで、なかなか講義をうけることがなかった内容でした。もう少し具体的な話も、おききしたかったです。

- ・当院の小児科病棟でも AYA 世代の患者さんが常に入院しており、特に中学生、高校生への関わりに難しさを感じています。今後の患者、家族への関わり方について今回の講演を拝聴し、方向性が見えてきました。

- ・AYA 世代のがん患者とその家族に対する支援方法について、事例が多々ありわかりやすかったです。がん患者が多い(ワースト 1 位)青森において、ナースとして患者のニーズに応えられるよう、今日の講義で学んだことを活かせたらと思います。

- ・現状と理想の状況との差をどのように縮めていけるのかを考えると、病院側からの努力では解決できないと感じた。

- ・CLS について、初めて学ぶ機会となりました。

- ・最近、親が亡くなった生徒がいて、学年の先生たちは、いつもどおりに見えると話していたので少し安心していたのですが、社会再適応評価尺度を見て、本当にそうなのか、直接、あるいは担任等を通してアプローチする必要があるのではと感じました。教育とは違った視点で研修ができ、大変勉強になりました。

- ・子どもにとって学校の大切さ、教員の存在の大きさについて伺い、あらためて、学校教育の重要性について痛感しました。

- ・教員の研修、特に養護教諭の現職研修に本日、学んだ視点を取り入れていけたらと思いました。

- ・知っていること、知らないこと、自分の考えを深めることができ、とても勉強になりました。

5. 今後がんプロ事業として実施してほしい研修会等があればご記入ください。

・アドバンス・ケア・プランニングのすすめ方

・コミュニケーションなど

・学校の先生むけに、入院中からの復学支援についてアピールするような研修会をしてほしい。小学校に行って小児がんについて NS の立場で生徒たちに知ってもらいたいのですが、そういう機会をもつための橋渡しをしてほしい

・がん患者の就労支援について(治療と仕事の両立)

・CLS の取り組み具体例をあげて、こんな事例にはこう対処したなど

・“遊び”を主な介入の手法としているが、どんな遊びなのか今までの例、これからこのような遊び取り入れていきたいなど

・プレパレーションの成功例、失敗例(いろいろなニーズに対応するために必要なこと)

・薬剤関連のものの希望

・医療関係者以外の職業との関連がどのぐらい必要なのか、どんな職種との連携が必要になってくるのかについて

・医療関係者だけでなく教員(一般科目担当の)との合同セミナーも、必要だと感じました。学校では授業を行うことと、治療が同時並行に行えるとは思っていないように感じていました。教員が医療界に飛び込むだけでなく、医療者が教育界を体験することも必要だと思います。

・今回のセミナーだけではまだ講師が伝えきれないほど大きな内容だと思いました。第 2 弾の公開セミナーを期待しています。

・海外で行われている CLS の取り組みをもっと教えてほしい。

・在宅療養について